

学校法人石田学園

中期計画

2024-2028



Message from President

学長挨拶

広島経済大学は、1967（昭和 42）年、歴史ある武田山の麓に開学しました。大学の経営母体である石田学園創立の理念は「和を以て貴しと為す」、大学開学の理想は「大学の道は明德を明らかにするに在り」であり、こうした理念理想のもと、教育の拡充を図ってきました。経済学部、経営学部、メディアビジネス学部の 3 学部を備える社会科学系の総合大学として、次代を担う人材である「ゼロから立ち上げる」興動人、すなわち既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を持ち、仲間と協働して何かを成し遂げる力を備えた人材の育成を目指しています。

少子化という大問題が背景で進行する中、地方の私立大学が存在し続けるためには、大学の価値を学外に明確に示す必要があります。大学の価値は、研究と教育です。本学では特に教育を重視し、次代を担う学生を育成して国家社会へ貢献することに価値を置いています。時代にふさわしい、より良い教育を目指して改革を続けるため、その道筋を描いた中期計画（2024-2028）を作成いたしました。

広島経済大学では、学生が仲間とともに切磋琢磨して今を生き抜くゆるぎない力を身につけることを願い、多様な学びと経験の機会を提供するよう、努力を続けてまいります。今後とも、あたたかなご支援ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

学長 石田 優子

建学の精神「和を以て貴しと為す」

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園は、明治 40 年に校祖石田米助翁によって創立されました。学園の創立にあたり、学園創立の根本的な目的である建学の精神を「和を以て貴しと為す」としました。

立学の方針「大学の道は明德を明らかにするに在り」

本学は、学生一人ひとりが、学問研究を通して、明德（本来持っている曇りのない本性）を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを教育の理念としています。

教職員の行動指針「Be Student-oriented（すべては学生のために）」

Mission

「ゼロから立ち上げる」興動人の育成

少子化、AI やテクノロジーの進化、世界情勢の変化、多様化、コロナウイルスのもたらした価値観の変容など、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。混迷する時代に求められる人材とはどういう人か、私たちは問い続けてきました。そして掲げた人材像が、「ゼロから立ち上げる」興動人です。

興動人とは、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることでできる力を備えた人材。本学では「興動人」を実践的に育成するために、「社会人として必要な学識を養う」、「人間力を培う」、「自分を表現する能力を身につける」ことを柱として、さまざまな取り組みや特色ある学習プログラムを実施しています。いかなる時代をも、明るくたくましく生き抜く力を育てることが、私たちのミッションです。



Vision

1. 長期ビジョン

安定した経営基盤のもと、特色ある高品質の教育で地域社会と経済の発展に寄与し、中四国地区で No.1 の教育力を誇る私立大学としての名声を確立する。

目指す姿

- ・ 学生であることに誇りが持てる大学
- ・ 地域の高校生誰もがあこがれる大学
- ・ 教職員であることに誇りが持てる大学
- ・ 卒業生であることに誇りが持てる大学
- ・ 保護者が自分の子供を自慢できる大学

2. 中期ビジョン：2028 年度までの達成目標

特色ある教育プログラムを持つ、私立の社会科学系総合大学として、地域の教育界をリードし、次代を担う人材を育成する大学の地位を確かなものとする。

2028 年にどういう大学でありたいか

以下の3点において、No.1 の大学を目指します

1. 挑戦する大学

「学ぶのは、行動を興すため」という本学のポリシーにもとづき、変化をチャンスととらえ、機動力と独自性を発揮して挑戦しつづける大学になる。

2. 学生を伸ばす大学

地方中堅大学の利点を活かし、知識と経験を重視した教育と手厚い支援体制を確立。

「興動館教育プログラム」の推進と、4 年間一貫のゼミ教育を通じて

「最も学生を伸ばす大学」としての評価を獲得する。

3. 地域に愛される大学

人材の育成に加えて、研究力を高めて成果を発信し、社会の発展に寄与する。

学生の諸活動を通じて培った地域との絆をさらに深め、愛される大学になる。



広 報 ・ ブ ラ ン デ ィ ン グ

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

大学の発信力を高める / ステークホルダーとのコミュニケーションの強化 /
情報公開体制の整備

教 育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

興動人育成のための教育を促進 / 時代に対応した教育の展開 / 教育改革の促進 /
教育支援 / 学生支援 / 個性的な施設を活用した教育の推進

研 究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」

研究支援体制の整備 / 成果の教育への還元 / 成果の社会への還元

グ ロ ー バ ル 戦 略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」

国際交流事業支援 / グローバル教育の推進
キャンパスの国際化 / HIROSHIMA から世界へ

地 域 連 携 ・ 社 会 貢 献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」

地域連携の深化 / 大学のリソースの提供と学習機会の推進 / 興動館や立町キャンパスの活用 / スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

経 営 基 盤

財政基盤の強化 / 危機管理体制の強化 / キャンパスの環境整備 / 内部質保証

アクション・プラン

1. 広報戦略

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

アクティブな学びを発信し、輝く広経大ブランドを確立

日頃の教育及び研究、学生の学びに関する活動といった情報の発信強化を通じて、学びに真摯な大学としてのイメージ確立を目指します。

■ 大学の発信力を高める

- ・ 全学的な広報活動を推進すべく、教職員の意識改革を図る。
- ・ 広報にあたり、教育と研究の成果が持つ社会的な価値を追求する。

■ ステークホルダーとのコミュニケーションの強化

- ・ 同窓会とのより一層の連携強化を図る。
- ・ 高大接続に向けた取り組みを推進する。
- ・ 研究成果の社会への還元を推進する。
- ・ ＯＣや各種説明会などの機会を通じた保護者等への情報提供の工夫をする
- ・ 高校への情報提供の工夫をする。
- ・ 地域社会との積極的な情報交換を行う。

■ 情報公開体制の整備

- ・ 法令に従って適切な情報公開を行うとともに、情報へのアクセス方法のわかりやすさなど、ステークホルダー目線にたった工夫をする。
- ・ 大学が持つ社会的責任を果たし、ブランドの確立を目指すためにも、幅広いステークホルダーへの説明責任や双方向コミュニケーションが重要となっていることをふまえて整備を行う。

2. 教 育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

ゼロから立ち上げる「興動人」を育成する

広島経済大学では、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目標としています。変化する時代に対応し、興動人育成のための特色ある教育プログラムのブラッシュアップを図っていきます。

■ 興動人育成のための教育を促進

「ゼミといえば広経大」、学びの面白さを発信

『4年間一貫、少人数ゼミの特色を生かして、ユニークな活動を実施』

- ・プレゼンテーション能力の育成を目指し、ゼミ活動や卒業論文などの発表会を、それぞれの学科で実施する。
- ・企業や地域と連携して、課題解決に向けた提言作成に取り組む活動を実施。「1ゼミ1連携」を目指す。
- ・ビジネスコンテストへの出場、他大学との共同研究などを推進し、学外へと意識を向け、活動の幅を広げる。
- ・生涯を通じた人間関係作りの場として、学生同士が切磋琢磨して学べるよう教職員がサポートできる体制を整える。

■ 興動館教育プログラムの充実

- ・各学科の特性を生かした興動館科目の充実と履修者の増加を図る。
- ・興動館プロジェクトの充実に向け、地域や関係団体との関係強化を推進する。
- ・プロジェクト活性化のための、支援プログラムとコーディネーターの充実を図る。

■ 時代に対応した教育の展開

■ 初年次教育の充実

『大学入試制度の多様化により、入学する学生の能力も多様化する今、特に重要性を増す初年次教育の充実を目指す』

- ・「大学での学び」への理解を後押しし、学びへの好奇心を育む。
- ・アカデミックスキルの修得を確実なものとする。
- ・人間関係の構築を通じたコミュニケーションスキルを向上させる。
- ・リメディアル教育（学習支援）を充実させる。

■ データサイエンス教育プログラムの周知と推進

『AI の台頭を念頭に置いた政府の方針に対応し、データサイエンス教育を推進』

- ・ データサイエンス教育プログラムを学生に周知し、履修者数の増加をはかる。
- ・ 上記プログラムの履修必修化を目指す。

※文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」
の認定を受けた。（2023(R5)年 8 月 25 日公表）

- ・ 授業やゼミにおける生成 AI 活用の可能性を検討、学生のスキル向上を目指す。

■ 論理的思考力の育成

『変化が急で、不確かな時代に求められる、自ら考えて行動するための論理的思考力を、すべての学生が修得することを目指す』

- ・ 授業科目を再編し、「論理的思考力育成プログラム」を構築する。
- ・ 課題解決型授業、調査法の授業等導入及びフィールドワークの充実を図る。

■ 時代に対応する新たな教育方法の開発

- ・ ICT 技術を活用した教育（授業）を推進する。
- ・ 教員の教育力向上を目指して FD 研修会の充実を図る。
- ・ IR（Institutional Research）による教育プログラムの改善支援を行う。
- ・ ハイブリッド型授業を念頭に、オンライン授業の質向上を図る。

■ 教育改革の促進

■ 教養教育

『～本学が目指す教養教育（良識ある日本人として国際人として生きていくために必要な教養）の理念と目的を確認し、時代に即応した科目の検討を行う～』

- ・ 自己理解系科目、他者理解系科目において、今日的課題を解決するために、基盤となる教養を担う科目の内容を見直し、科目の改廃・新設（基礎教養科目からの移設を含む）、同一科目の複数クラス開講などを図る。
- ・ 外国語科目について、異文化理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を高めるために、学生の個々の能力を踏まえたうえで、統一性と多様性のバランスをめざした英語教育を実践する。そのために、レベル別コンテンツの開発（学力上位層への充実した英語教育の提供を含む）、能力別クラスの編成などを図る。
- ・ 日本語科目について、言葉で論理的に考え表現する力を高めるために、実用的文章や論理的文章の表現法を学ぶ科目を充実させるとともに、資料を読んで情報を的確に解釈したり価値ある情報を創出したりすることを学ぶ科目の新設を図る。

■ 経済学部

『～地域社会に信頼される経済学部として、グローバルな視座を備えた、地域に貢献する人材を育成し、地域社会の発展に寄与する学部を目指す～』

- ・現実社会の課題解決に向け、経済学の知見を活用できるような、理論と実践を組み合わせた経済学教育の確立。
- ・広島を中心とした中・四国地域経済の社会的課題を分析する機会を学生へ提供し、地域の課題解決策を模索する実践的な経済学教育の確立。
- ・社会で生き抜くための金融リテラシーから金融理論までを学べる金融教育の確立。
- ・身近にあふれる数値情報を、ビジネスに活用し、さらに経済の動きまでも理解できる統計リテラシー教育の確立。

■ 経営学部

『広島地域の企業を中心とした産学連携を強化し、実践的なビジネス教育を通じて、産業界をけん引する学部を目指す』

- ・アントレプレナーシップの醸成による実業に結び付く教育内容の強化。
- ・産学連携をベースとした実践的な科目内容の見直し。
- ・スポーツをビジネスとしてとらえるという視点を明確化し、スポーツビジネスを実践する力を養う科目体系の見直し。

■ メディアビジネス学部

『～コンピューターや AI、情報通信、各種メディアの急速な進化と現代社会の要請に柔軟に対応し、新しい価値を創出し次代のビジネスを牽引できる有為なビジネスパーソンを育成する中四国唯一の学部を目指す～』

- ・社会科学系大学ならではの、情報、データサイエンス、AI、メディアに関する知識習得カリキュラムとリテラシー教育を充実させる。
- ・業界の最先端の理論や知見を学ぶことができる、時代に適合した学部科目を検討する。
- ・卒業後の多様な進路と豊かな職業選択を考えさせるキャリアプログラムを開発する。

■ 大学院経済学研究科

『社会の要請や学生のニーズに基づき、カリキュラムの充実、新設科目の検討、授業内容の見直し、大学院生のキャリアパスの拡充などを行い、研究の拠点として誇りうる大学院の創造を目指す。』

- ・税務会計分野のカリキュラムについて質量両面で拡充を行い、教授陣の強化を図る。
- ・共同研究などを通じて産官学の連携を深め、研究成果や情報の外部との共有を行う。

■ 教育支援

■ ピア・サポートを支援

- ・建学の精神に基づき、学生同士の学びあいを支援する。
- ・「ピアサポーター養成講座」の受講対象を広げ、ピアサポーターを増員する。

■ フォローアップ体制の整備

- ・ラーニングサポートコーナー（LSC）の活動を充実させ、稼働率を高める。
- ・授業と連動し、LSCでの教員による補習や、SA 制度についての周知を高める。
- ・LSCで活動するチューデントアシスタント（SA）のスキル向上を支援。
- ・成績不振学生の早期発見、成績不振者対象のフォローアップガイダンス等により早期対策に取り組む。

■ 学びへの挑戦をサポート

- ・資格支援講座の充実と周知をはかり、難易度の高い資格取得を目指す学生を支援する。
- ・英語の検定や公務員試験、教員採用試験など、同じ目標を持つ学生が出会う場を設け、切磋琢磨できる環境を整える。
- ・英語科目等の習熟度別クラスをより細かなレベル分けを行い、学びへのモチベーションや意欲を高める。

■ 学生支援

■ 奨学金制度

- ・学業成績優秀者奨学金の他、課外活動奨学金（学費減免を含む）や、アクティブ奨学金などのさらなる充実を図る。

■ 「オーダーメイド」の就職支援

- ・「チャレンジ 100」として選定した重点企業や上場企業への就職率を上げる。
- ・公務員試験対策を強化し、公務員合格者数の増加をはかる。
- ・「地元への就職 70%」の強みを活かし、自治体と連携して、地元就職を目指す学生をサポート。U ターン、I ターンの就職支援の強化を図る。
- ・学部の特性に見合う就職先の開拓や、「進路・就職支援プログラム」を実施。
- ・低学年次からのキャリア教育を強化する。

■ 女子学生支援

- ・自分らしく活躍できる社会の実現のため、キャリア形成を支援する。
- ・キャリア支援として、履修生の評価が高い「女子学生支援関係科目」を継続する。
- ・女子学生会「こまち会」の学生スタッフによる運営を支援する。

■ 学生活動の支援

- ・ 学生対応に関する学内連携を促進する。
- ・ 学務センター スポーツ支援課（2024 年 4 月設置）による支援体制を確立する。
- ・ 学生相談室や保健室の機能を維持し、多様な学生に対応する。

■ 個性的な施設を活用した教育の推進

■ 「知の館」としての図書館

『経済関連書籍の蔵書数として中四国有数の規模を誇り、グループ室や個室も完備』

- ・ Society 5.0 の時代に対応できる興動人となるために必要な情報資源（紙媒体・デジタル）の拡充を図る。
- ・ ゼミ単位のガイダンス（検索実習等）のブラッシュアップを継続的に実施し、図書館情報リテラシー教育の充実を図る。
- ・ 施設設備面の整備・改編を検討し、より「心地よい学習の場」を目指すと共に、「非来館型サービス」の充実に努める。
- ・ リポジトリによる教員の研究成果等の公開（オープンアクセス化）を推進する。

■ 「創造の館」としての明德館

『建物すべて！自習の場としても一番人気を誇る、最大級のラーニングコモンズ』

- ・ 1 日あたり利用者数の増加を目指し、利用活性化に向けた事業を展開。
- ・ アクティブ・ラーニングの導入提案を行う等、授業支援を行う。

■ 「実践の館」としての興動館

『地域連携の要。学生主体のプロジェクトや興動館科目を通じた交流拠点』

- ・ 興動館教育プログラムの改善、成果の見える化をはかる。

■ 世界遺産島内「特別な経験の場」としての成風館

『ゼミやプロジェクトの合宿が可能。記憶に残る経験を積む、親睦と学びの拠点』

- ・ すべての学生が 1 度は世界遺産の島で学ぶ経験ができるよう、ゼミ等の活動を支援して利用を促進する。

■ 「情報教育の中枢」としてのメディア情報センター

『モバイル機器等を活用できる学習環境や、スタジオ、ラジオブースを備えた、情報教育の中枢』

- ・ 設備を利用した教育を推進する。

3. 研 究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」 社会科学分野における「知の拠点」を目指す

地域の活性化、格差問題、環境破壊など社会の問題に向き合って意義ある提言を行い、地域と連携して、持続可能な社会をともに作ることを目指します。また、研究活動を大学内部だけに限定せず広く実業界や市民社会に拡大していくことを通じて、社会科学を主たるフィールドとする大学として、その責任を果たします。

■ 研究支援体制の整備

■ 支援体制の充実

- ・ 成果による研究費配分の見直しをはかる。
- ・ インパクトファクターの高いジャーナルへの投稿を後押しする。
- ・ 教員の研究業績である研究双書、学術図書の出版の援助を充実する。
- ・ 科学研究費助成事業及びその他の外部資金獲得のための支援を充実する。

■ コンプライアンスへの取り組み強化

- ・ コンプライアンス教育、研究倫理教育を実施し、研究不正防止体制を整備する。
- ・ 研究費の適正な管理体制の整備を継続する。

■ 研究成果を教育や社会へ還元

- ・ 教員の研究から得られた新たな知見を授業に反映するよう、授業内容の見直しを行う。
- ・ 地域社会が直面している課題解決に向け、「知の拠点」として研究を進め、情報を発信し、地域貢献を目指す。

4. グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」 ここから世界へー 真のグローバルリストを育成

世界のどこにいてもすぐにつながれる時代、世界はずっと身近になりました。世界への一番のハードルは、もはや私たちの意識そのもののように見えます。本学では、学生が世界とつながる経験を積み、世界とともに生きる意識を身に付けられるよう、環境を整えます。

■ 国際交流事業支援

■ 世界で活動する学生プロジェクトを支援

- ・ 海外での活動を伴う興動館プロジェクトへの助成を継続する。
- ・ 上記プロジェクトが、高校生や地域社会に対し、活動を通じて学んだ問題を伝える機会を得るための支援を行う。
- ・ 新規のプロジェクト立ち上げを支援する。

■ 海外の関係校との連携の強化

- ・ 姉妹校や協定校、NIBES 加盟校との関係を強化する。
- ・ 新規の姉妹校や協定校の開拓を進める。

■ グローバル教育の推進

- ・ 留学生の受け入れと、学生の送り出しの強化をはかる。
- ・ 学長のカナダ名誉領事就任に伴い、カナダなど英語圏の語学留学先を開拓する。
- ・ 英語による専門科目を増やし、カリキュラムの国際化を図る。
- ・ ポストコロナを見据え、オンラインを利用した体験留学プログラムの充実をはかる。
- ・ 教員交流の促進（提携校との関係強化）を推進する。

■ キャンパスの国際化

- ・ 留学生と日本人学生の交流、学びあいを促進する。
- ・ 明徳館 5F のワールドカフェ（国際ラウンジ）活用を促進し、キャンパスの国際化をはかる。

■ HIROSHIMA から世界へ

- ・ HIROSHIMA の持つ潜在的な力を意識し、地域活性化への貢献をすすめ、国際社会に対する直接的な発信を強化する。
- ・ 広島がスポーツや平和における「世界のハブ」となるための施策に協力する。
- ・ 学生や留学生に、広島で学ぶことの意義を伝える教育プログラムを構築する。

5. 地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」
人材育成を通じて、社会の未来に貢献する

次代を担う若者にとって、学びの中で社会と連携する経験は非常に重要であり、そうした経験をより多く積むことで地域に貢献しようと願う人材へと成長していきます。本学では教育機会、人材育成を通じて、地域と連携し、貢献することを目指します。

■ 地域連携の深化

■ 地域連携事業の促進

- ・地方私立大学の特性を最大限活用し、地域と大学の連携におけるロールモデルとなる。
- ・行政や地域団体とコラボし、学生目線での提言や活動が行えるような機会を増やす。
- ・地域が持つ知識や経験を、教育に活用するよう検討を進める。
- ・社会貢献分野に関する新たな興動館プロジェクトの立ち上げを進めていく。

■ 地域企業との連携の強化

- ・包括協定を締結した企業や官庁との連携を強め、提携事業を推進する。
- ・本学教員の研究調査実績を活用し、新たな産官学連携協定先を開拓する。

■ 大学のリソースの提供と学習機会の推進

■ 社会人向けのキャリアアップ・プログラム（CP）

- ・オンデマンド講座の拡充など、受講生のニーズを捉えた授業方法の改善。
- ・リカレント教育やリスキリングを意識して内容の充実をはかる。
- ・CPの告知方法を改善して一層の周知をはかり、受講者数の増加を目指す。
- ・CP受講者のコミュニティをつくり、受講後も交流できるよう支援。

■ リソースを地域へ還元

- ・地域対象の公開講座を充実し、周知をはかってより広い還元を目指す。
- ・自治体、企業や地域団体と連携関係を作り、課題解決に向けた調査・分析・提案への協力を推進する。

■ 興動館や立町キャンパスの活用

- ・地域連携拠点としての興動館、社会人教育の場である立町キャンパスの活用を進める。

■ スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

- ・スポーツや平和、文化を通じた教育の展開を通じて地域に貢献する。
- ・プロジェクトや部活動の支援を通じて、同窓会や地域社会との関係構築を図る。
- ・ボランティア活動を促進（災害時の体制の構築）する。

6. 経営基盤

■ 財政基盤の強化

- ・教育活動資金収支差額の支出超過を改善するため、学生数の確保を目指し、収支バランスの均衡を図り、長期的に安定した経営基盤を構築する。
- ・教育活動外収支については、適切なリスク管理の下で安全面に配慮した資産運用や保有資産の活用を行い、安定的な財務基盤の確立を目指す。

■ 危機管理体制の強化

- ・環境の変化をとらえ、必要に応じて事業継続計画（BCP）を見直す。
- ・危機管理対応について、定期的に関係部署全体で点検し、連携強化をはかる。

■ キャンパスの環境整備

- ・SDGs を意識し、事業の効率化やペーパーレスの推進を進める。
- ・ポストコロナにおけるハイブリッド型授業のための環境を整備する。
- ・学びの展開に合わせて、メディア情報センターの設備を更新する。
- ・学校施設のカーボンニュートラル化を進める（建物の断熱化や太陽光発電等、省エネルギー対策の推進）。

■ 内部質保証

- ・自己点検・評価を実施し、改善を目指す PCDA サイクルを推進する。
- ・教育の内部質保証について、教育研究の質や学生の学修成果、学修環境、学生支援について、適切に調査および分析し、改善を促進する。
- ・教職員の能力の保証と開発のための FD や SD について、内容の充実をはかる。